

2024年を象徴する3大ニュース

毎年この時期のCBCANEWSは、その年の振り返りをコラム記事としております。今年は年間を通じて報道されることの多かった、2024年を象徴する3つの事象について綴らせていただきます。

✚ 闇バイト事件の多発

今年、連日のように報道され、国民の関心が最も強かったニュースが、相次ぐ「闇バイト」事件であったことに異論をはさむ方は少ないでしょう。

オレオレ詐欺という言葉が初めて使われたのが2003年。手を変え品を変え、次々と新たな手法の詐欺が繰り返されるようになって既に20年。詐欺の未然防止活動がようやく奏功し始めたと思ったら、今度は連続しての強盗傷害・殺人です。

以前の詐欺では「受け子」「掛け子」といった役割だった実行犯は、金品を強奪し人を傷つけ殺める「凶悪犯」に変貌しました。彼らの多くは、SNSなどを通じて闇バイトに応募した若者です。一見どこにでもいそうな若者が、わずかばかりの金欲しさに凶悪な犯罪に手を染めています。

逮捕された実行犯のなかには、タイパの良いバイトに応募したつもりが、犯罪に巻き込まれた者がかなりいるそうです。なかには、闇バイトによる凶悪事件が多発していることを知らずに応募した者もいるそうです。これだけ世間を騒がしている連続事件を全く知らないとは驚きですが、彼らは新聞やテレビの報道はおろか、ネットのニュースにも目を向けません。そうした世情に疎い若者が、深く考えることもなく、目先の利益につられ、闇バイトに応募するケースが多いとは、大変憂慮されます。

「無知は罪なり」はギリシャ哲学者、ソクラテスの言葉です。彼らがこの言葉をいま聞いたら、どう感じるでしょうか。己の無知を悔やんでいるでしょうか。常にアンテナを張り、必要な情報を集め、よく考え、そして生きていかなければならないと気が付いてくれればと願います。

✚ 選挙を変えた SNS

今年は、衆目を集める選挙が多い年でした。また、その選挙結果に驚かされ、選挙や報道の在り方についても考えさせられる年でもありました。

7月の東京都知事選挙では、当時東京では無名に近かった石丸伸二氏が健闘、当選した小池百合子氏に次ぐ票を獲得しました。10月の衆議院選挙では、少数勢力に過ぎなかった国民民主党が大躍進し、公示前の7議席から4倍の28議席を獲得しました。そして11月の兵庫県知事選では、パワハラ疑惑で失職した斎藤元彦知事が、下馬評を覆しての返り咲き当選となりました。これらの選挙結果の原動力となったのは、SNSを駆使した選挙活動や、SNSを通じて広がった情報だと言われています。

都知事選では、小池氏や蓮舫氏といった事前の有力候補に飽き足りない有権者に対して、石丸氏が新鮮で能力ある候補者であるとの印象が、SNSを通じて拡がりました。衆院選では、物価高の折、いわゆる「103万円の壁」を身近な問題としてとらえている主婦や学生などのパート・アルバイト就業者に対して、所得控除の引上げによる手取り額のアップを政策の柱とした国民民主党の主張が、SNSを通じて拡がりました。兵庫県知事選では、斎藤前知事は悪いやつだと思い込んでいた多くの県民に、斎藤氏は決して悪者ではなくむしろ旧体制側の罠にはめられた犠牲者だとの見方が、SNSを通じて拡がりました。

このように、SNSが伝えた具体的な情報は選挙によって異なります。しかしながら共通して言えるのは、テレビや新聞といった従来メディアが殆ど伝えていない情報が注目されていることです。

従来メディアでは、都知事選では小池氏と蓮舫氏の女の戦い、衆院選では裏金問題をめぐる与野党間の対立といった、選挙の構図をイメージ化した報道が目立ちます。そして兵庫県知事選では、選挙期間になると目立った報道はなされませんでした。これで「選挙に行きましょう」と言われても、判断する情報があまりにも不足しています。

有権者が判断材料をネットに求めるのは当然の結果でしょう。確かに、ネットの情報にはフェイクも多く、有権者に誤った判断を与える可能性は否定できません。けれども、伝えなすすぎる従来メディアは、情報媒体としての存在意義すら感じられません。

従来メディアの報道の在り方に、反省の弁を述べるアナウンサーがいました。従来メディアがよほど本気で取り組まないと、政治や選挙の情報はネットで入手するのが当然の時代になりそうです。

🚩 続く大谷フィーバー

今年もメジャーリーグの大谷選手の活躍が、毎日のようにマスコミをにぎわせました。再びホームラン王となったバッターとしての活躍もちろん素晴らしいですが、新たに盗塁王となりランナーとしての才能を開花させたことはさらに驚くべきことです。

普通の選手なら、「今年はピッチングが出来ないから、その分バッティングで頑張ろう」と考えるでしょう。ところが大谷選手は、「今年はピッチングが出来ないから、その代わりにバッティングに加えてランナーとしても頑張ろう」と考えたのです。能力の高さもさることながら、そのあくなき追求心が大谷選手の進化の源と言えるでしょう。

それにしても、テレビにおける大谷選手の報道機会の多さは、異常ともいえる頻度です。午前は、リアルタイムでの試合状況を伝え、昼は、今日の成績を伝え、夜は、スポーツコーナーの大部分を大谷選手の活躍やエピソードに充てます。あまりの露出の多さに、「大谷ハラメント」などといった言葉が使われるほどです。

趣味や価値観が多様化した現代では、多くの人に関心を持ち、強く惹きつけられるニュースや事象を見出すのは困難な作業です。そんななか、大谷選手の存在と活躍は、マス・メディアにとって救世主のような存在かもしれません。世界最高の舞台上で、連日のように大活躍し、ナンバーワンの存在になってもなお進化を止めない大谷選手は、まさに「神」です。連日、追いつけないわけにはいきません。

さて、来年の大谷選手ですが、まずは怪我を完全に治し、十分に休養を取り、万全の体調で臨んで欲しいと願うばかりです。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒105-0012
東京都港区芝大門 1-1-32
御成門エクセレントビル 8階

TEL : 03-6459-0161 FAX : 03-6435-7717
mail@cbca.jp http://www.cbca.jp

お問い合わせ先